

2026 年 10 月

日本医療安全工学・情報学会創立理事としてのご挨拶

東京都健康長寿医療センター 名誉センター長 許 俊鋭

横浜市立大学“患者取違い事故”、都立広尾病院“消毒薬静注事故”が刑事事件に発展した為社会に大きな危機感を与え、1999年は「医療安全元年」と呼ばれています。2001年に発生した東京女子医大“陰圧吸引補助脱血人工心肺事故”は、大学が「人工心肺操作ミスによる空気誤送が原因」としたため、担当助手が逮捕されました。当時、日本人工臓器学会理事長であった私は「事故調査報告書指摘の吸引ポンプ回転数を最大に上げても物理的に空気誤送は生じ得ない」として、3学会合同陰圧吸引補助脱血体外循環事故検討会を立上げ、綿密な再現実験の結果、回路の陰圧吸引補助ラインに設置された不要なガスフィルターの目詰まりが原因と突止め、『陰圧吸引補助ラインにはガスフィルターを使用せず、ウオータートラップを装着する事』など再発防止4項目の順守を勧告しました。結果、担当助手は無罪となり、その後同種の事故の再発はなく、2005年に『診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業』、2015年から今日の医療事故調査制度と学会主導の事故調査制度が発展しました。今日の高度情報化社会における医療安全に日本医療安全工学・情報学会の活躍を期待します。